

令和6年度地域ぐるみで「体験の風をおこそう」運動推進事業
「ファミリーで美しい能登の海へ！ヨットセーリングキャンプ」

1 趣旨

- ・ヨットの基礎知識や技能を学び、ヨットの操縦を体験することで能登の海に親しむ。
- ・海での活動を通して、自然体験に関心を持つきっかけを与える。
- ・家族と一緒に体験活動をすることで、親子の絆を深めるとともに協働性を高める。

2 日程

- (1) 期日 令和6年9月7日(土)～8日(日) 1泊2日
(2) 参加者 小学校3年生以上の児童を含む家族 7家族25名
(3) 活動内容

9月7日(土)		9月8日(日)	
8:30～8:50	集合・受付	6:00～7:00	起床、清掃
8:50～9:30	滝港マリーナへ移動・はじめの会	7:00～7:20	朝のつどい
9:30～12:00	ヨット体験	7:20～8:00	朝食(食堂)
12:00～13:30	昼食(注文弁当)・休憩	8:00～9:00	宿舎点検・荷物移動
13:30～16:00	海遊び(滝港海岸広場)	9:00～13:00	野外炊事「夏野菜カレー作り」
16:00～16:30	交流の家へ移動	13:00～13:30	2日間の振り返り・おわりの会
16:30～17:45	入室・入浴	13:30～	解散
17:45～19:00	夕食(食堂)・休憩		
19:00～21:00	マイスプーン作り・花火		
21:00～	就寝準備・消灯		

3 成果と課題

- (1) アンケート結果からの成果(おわりの会前に家族毎に記入)
- ① 事業の満足度は、参加した7家族すべてが「とても楽しかった」と回答し、事業全体は高い評価を得ることができた。
 - ② ヨット・海遊びの感想では、「初めてヨットに乗って楽しかった」「かじを取るのが一番楽しかった」という記述が多く見られた。また、「高校生たちが優しく教えてくれた」「いろいろな人と関わって仲良くなれた」という記述もあり、普段できないヨットの操縦に加え、高校生との交流も参加者にとって良い経験になったことが分かる。
 - ③ マイスプーン作りの感想では、「自分だけのスプーンを作れてうれしかった」「(子どもが)初めて彫刻刀を使ったが集中して取り組んでいた」という記述が見られた。一方で、低学年の子どもがいる家族から「妹はノコギリが使いなくて残念だった」という意見があった。刃物を使う回数が多かったため、低学年には難しい活動となってしまったと考えられる。
 - ④ 野外炊事の感想では、「火をおこすところからするのが楽しい」「鉄鍋で炊きあがったご飯がとてもおいしかった」という記述があった。家庭では使用しない薪や鉄鍋での調理に、親子で楽しそうに取り組む姿が見られた。
 - ⑤ キャンプを通しての子どもの変化については、「自分からお手伝いをしていて、しっかり者で驚いた」「野菜を家で食べないのに、自分たちで作ったカレーをおいしそうに食べていた」「娘が家族の中で1人だけ女子だったため、今回初めて1人で入浴したが、無事に出来て成長を感じた」という記述が見られた。いつもと異なる生活環境で過ごしたことが子どもの成長に繋が

り、保護者も子どもの新たな一面に気づくことができたため、家族にとって有意義な時間となった。

(2) 事業を通しての成果と課題

- ① 1日目の海活動では、熱中症等になった際の休憩場所として滝港マリーナ管理棟の会議室を想定していた。会議室には冷房がついていないため、体を冷やせるよう保冷剤や飲料、救急セット等を準備した。また、午後の海遊びの際は海岸広場の駐車場に公用車を常駐させ、すぐに対応できるように努めた。今回は体調不良者も出ず無事に活動を終えることができたが、次年度以降も熱中症対策を徹底して活動に臨む必要がある。
- ② 夜は、ふれあいの広場でマイスプーン作りを実施したが、照明だけでは暗く、製作に時間がかかってしまった。安全には十分配慮して作業を進めたが、研修室で行う等の工夫が必要であった。
- ③ 今年度はボランティアの応募がなく、職員のみで対応した。保護者の人数も多かったため事業運営に大きな支障はなかったが、写真撮影や活動準備・片付け等が少し手薄になってしまった。今回、ボランティアへの事業周知はメール配信のみだったが、今後は学生にとって身近なツールである SNS 等でも募集案内を行い、ボランティアの獲得に繋げたい。

4 事業の様子

